

## ASEAN 大使通信

### 第 8 回 ASEAN 関連外相会議（the 56th AMM/PMCs）の成果

2023 年（令和 5 年）7 月 25 日



東アジア首脳会議（EAS）参加国外相会議（2023 年 7 月 14 日）

今月は、ジャカルタで ASEAN 関連外相会議（the 56th AMM/PMCs）が開催されました。ASEAN 内外から約 30 名の外務大臣が一堂に会し、ASEAN+1 や ASEAN+3（日中韓）、東アジア首脳会議（EAS）、ASEAN 地域フォーラム（ARF）の外相会議や二国間・三国間会談などが次々に行われました。日本からは林芳正外務大臣が来訪し、タイトな日程の中で多くの会議・会談に出席しました。

私自身、事前の準備や交渉に携わり、当日も一部の会議に同席する中で、参加各国が ASEAN 中心性を尊重することで、ASEAN 主導の地域協力の枠組みが実際にハイレベルで機能し、成果を挙げていると実感しました。

それ以外にも、今月は西村前 ERIA 事務総長への在外公館長表彰授与、日 ASEAN 特別法務大臣会合、ASEAN 元日本留学生評議会（ASCOJA）年次総会などがありました。今回の大使通信では、AMM/PMCs をはじめ今月の主要行事を紹介しながら、その意義と成果について皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



西村英俊前 ERIA 事務総長への在外公館長表彰授与式典（2023 年 7 月 3 日）

### ●西村英俊前 ERIA 事務総長への在外公館長表彰授与

[東アジア・ASEAN 経済研究センター（ERIA）](#)をご存じですか。2007 年の東アジア首脳会議（EAS）の合意に基づき、2008 年に ASEAN と東アジアのためのシンクタンクとして設立されました。それ以来 15 年間にわたり、貿易・投資、エネルギー安全保障、気候変動、環境、デジタル経済、イノベーション、起業、食料安全保障、保健などの重要分野で研究・政策提言活動を展開してきました。

本年 7 月の渡辺哲也新事務総長就任を機に、ERIA 設立から本年 6 月末まで 15 年間にわたり ERIA をリードした[西村英俊前事務総長に対して在外公館長表彰を授与する式典とレセプション](#)を、7 月 3 日に私の公邸で開催しました。

この式典には、カオ ASEAN 事務総長、3 名の事務次長、ASEAN 加盟国・対話国の常駐代表・大使や ASEAN 諸機関代表、金杉駐インドネシア日本国大使をはじめ多くの関係者が出席し、ERIA の ASEAN・東アジア地域への貢献に対する高い評価を感じました。

西村前事務総長は挨拶の中で、過去 15 年にわたる各 ASEAN 加盟国・対話国の貢献を一つ一つ説明して感謝のことばを述べ、各国と地域に対する深い愛情を感じました。今般の退任後も、新たな場で一層活躍されるよう願っています。



ASEAN・G7 法務大臣特別対話（2023年7月7日、法務省提供）

●司法外交閣僚フォーラム（日ASEAN特別法務大臣会合、ASEAN・G7法務大臣特別対話等）

7月6、7日には、東京で司法外交閣僚フォーラムが開催されました。司法外交閣僚フォーラムは、日ASEAN特別法務大臣会合、ASEAN・G7法務大臣特別対話、G7司法大臣会合の3つの会合からなり、うち前2者がASEAN関連会合です。

7月6日に、[日ASEAN特別法務大臣会合が開催](#)されました。ASEANが法務分野で開催した初めての閣僚会合で、日本のASEAN諸国に対する長年にわたる法制度整備支援、そして2021年からの高級実務者協議を基盤にして、日ASEAN友好協力50周年の節目に実施されたものです。会合の成果として、[共同声明](#)と[ワークプラン](#)を採択・承認され、今後具体的なフォローアップを行っていく予定です。

7月7日には、ASEAN・G7法務大臣特別対話が開催されました。開会式では、[岸田総理が挨拶](#)し、この特別対話は法の支配の推進に取り組むASEANとG7の法務大臣が一堂に会する史上初の対話の機会であり、日本がASEANとG7の懸け橋となることは、双方の多様な文化や法制度を知り、各国と確固たる信頼関係を構築してきた日本の使命と感じているなどと述べました。この特別対話では、

法の支配等の普遍的価値の共有や、ASEAN と G7 の法務・司法分野での更なる対話と協力の重要性が確認され、今後の対話の一環として、若手職員が交流するネクスト・リーダーズ・フォーラムを日本が提唱し、各国からの支持を得ました。

カオ・キムホン ASEAN 事務総長は、6月の日 ASEAN ビジネスウィークに続き今回も訪日して一連の会合に出席し、法の支配や基本的人権の尊重といった法務分野での日 ASEAN 協力の重要性を強調しました。訪日中は、NHK のインタビュー ([日本語](#)・[英語](#)) や東京大学での特別講演と学生との対話 ([日本語](#)・[英語](#)) など、日 ASEAN 関係について積極的に発信を行いました。

(次ページへ)



ASEAN 元日本留学生評議会（ASCOJA）レセプション（2023年7月9日）

### ●ASEAN 元日本留学生評議会（ASCOJA）年次総会

同じ週、ジャカルタでは [ASEAN 元日本留学生評議会（ASEAN Council of Japan Alumni : ASCOJA）](#) 年次総会が開催され、私は7月7日の金杉駐インドネシア大使主催レセプションで参加者の皆さんとお会いしました。

ASCOJA は、1977年に設立された ASEAN10 各国の元日本留学生会の連合体組織です。会員数は5万人を超え、基本的に年1回、持ち回りで総会を開催しています。27回目の今次総会は [インドネシア元日本留学生協会（PERSADA）](#) が「質の高い生活のためのSDGsにおける日・ASEAN協力」をテーマに主催し、ASEAN 各国から約200名が出席しました。

レセプションでは、日本から [武井俊輔外務副大臣](#) が出席して挨拶を行いました。私も乾杯の音頭を取った後、ASEAN 各国の元留学生協会の皆さんからお話を伺いました。各国で元日本留学生が、日本語・日本文化の研究・教育や政治・ビジネスの指導的立場で活躍しているのみならず、若い世代がスタートアップやイノベーションで日 ASEAN 協力を推進していることに強い印象を受けました。総会の様子は [NHK World-Japan](#) や [METRO TV](#) でも報道されました。



日 ASEAN 外相会議の会場で（2023 年 7 月 13 日）

#### ●ASEAN 関連外相会議（the 56th AMM/PMCs）

7 月 11 日から 14 日まで、ASEAN 関連外相会議が開催されました。7 月 11 日～12 日は ASEAN 外相会議とトリートで、ASEAN のみの会合です。[林芳正外務大臣は 7 月 12 日～15 日にジャカルタを訪問](#)し、13 日に日 ASEAN 外相会議と ASEAN+3 外相会議、14 日に東アジアサミット（EAS）参加国外相会議と ASEAN 地域フォーラム（ARF）に出席した他、滞在中に 12 の二国間・三国間会談を行いました。

一連の会議で、林大臣から一貫して ASEAN 中心性・一体性と「インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）」への支持を改めて表明し、開放性、透明性、包摂性、国際法の尊重など、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」と AOIP が共有する本質的原則の重要性を強調しました。また、12 月 16 日～18 日に東京で開催予定の日 ASEAN 特別首脳会議に向けて、緊密な協力を確認しました。

地域・国際情勢については、ロシアによるウクライナ侵略、東シナ海・南シナ海、台湾、北朝鮮、ミャンマー等について、日本の立場をしっかりと発信し、各国と有意義な議論を行うことができました。



ASEAN 関連外相会議の議場前ロビー（2023 年 7 月 14 日）

歴史の転換期にある中で、日本と ASEAN が世界の平和と繁栄のために連携を強化していくことを今回の林大臣の訪問で確認できたことは、非常に大きな意義がありました。今後も ASEAN を含む関係国と緊密に連携し、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の実現に向けた取組を力強く推進していく考えです。

私は昨年 11 月末に着任したので、ASEAN 関連外相会議は今回初めての経験でした。EAS の高級実務者（SOM）や大使級の会合ではいつも EAS 参加国代表と顔を合わせていたのですが、特に EAS 参加国外相会議で、実際に ASEAN と日中韓豪 NZ 印米口の全ての外務大臣が一堂に会し、直接お互いに意見を交わす場に同席して、ハイレベルのやりとりの重みとその意義を感じました。

インド太平洋地域の平和と繁栄は、ASEAN や日本をはじめ、いずれの参加国にとっても重要です。ASEAN が自らの「中心性（Centrality）」を掲げ、会議を招集して議長役を担うとともに、東南アジア友好協力条約（TAC）をはじめ諸原則の遵守を主導しているからこそ、対話国がそれを尊重して、このような ASEAN 主導の枠組みが有効に機能しているのだと思います。



インドネシア残留日本兵歴史ギャラリー開所式典で3・4世の皆さんと  
(2023年7月15日)

### ●歴史を基盤に未来をつくる

ASEAN 関連首脳会議直後の7月15日、[インドネシア残留日本兵歴史ギャラリー](#)の開所式典に出席しました。7月10日に行われた開所式典の一環として、インドネシア残留日本兵の3・4世の皆さんが企画して週末に行われたものです。

第二次大戦後、インドネシアに残留してインドネシア独立のために戦った元残留日本兵は約1,000名で、うち324名はインドネシア国籍を取得して永住を選択しました。その後、残留兵の方々は日インドネシア経済・文化交流の一翼を担い、2014年に最後の残留兵が逝去されました。今般、その歴史を記憶に留めるとともに、未来に向けて両国の交流の拠点とすべく、歴史ギャラリーが開設されました。福田康夫元総理による「心と心」の書が掲げられました。

戦後78年を経て、先人たちの「心と心」の交流と協力を経て、今日 ASEAN 間の信頼が築き上げられました。このような歴史を胸に刻み、より良い未来を切り拓いていくために、日 ASEAN 協力の推進に尽力したいと思います。

ASEAN 代表部大使  
紀谷昌彦